

六丁四反水路を改修し

関宿地域の浸水被害解消へ

市では、合併に際し、関宿地域の浸水対策として、「六丁四反水路」の改修工事を、新市建設計画の重点課題の一つにかかげて取り組んでおり、現在までに、全体計画のうち約15パーセントが完了しています。今年度も引き続き改修を進め、浸水被害の早期解消を目指します。



整備が進む六丁四反水路(写真は関宿高校付近)

市では、合併に際し、関宿地域の浸水対策として、六丁四反

11月18日から 市が作成する公文書などの「障害」の表記を「障がい」に

「障害」の「害」の字には、「悪くすること」「わざわい」などの否定的な意味があることから、人権尊重の観点から好ましくないと考え、また、当事者や関係団体からの要望も多く寄せられ、市では、ひらがな表記の検討を進めてきました。

一方で、文化庁の漢字小委員会では、石偏の「碍」の字を常用漢字に追加することが検討されていましたが、4月に追加が見送られました。

そこで、「障害」の「害」の字のひらがな表記に関する基本方針」の素案をまとめ、パブリック・コメント手続で皆さんの意見を伺ったうえで、「障がい者基本計画推進協議会（藤井浩会長）」の審議を経て、関係条例や規則の改正などを行いました。

本日（11月1日）からは、条例や規則をはじめ、市報やパンフレットなど、市が作成する公文書などでは、法令用語や人の状態を表すものでは「障がい」と表記します。なお、今回の変更は、関係機関や団体、市民の皆さんにひらがな表記を求めるものではありません。

漢字	ひらがな
法令用語や医学用語	障がい者
障害者自立支援法 身体障害者手帳 じん臓機能障害	目や耳に障がいがある
電波障害 通行の障害 障害物	

【問合せ】社会福祉課

■六丁四反水路整備図



【問合せ】管理課

水路の改修工事を、新市建設計画の重点課題の一つにかかげて取り組んでいます。

六丁四反水路は、親野井地区から船形地区へ通じる、約7・7キロメートルの排水路です。

これまで、平成15年度から浸水箇所の調査や解析に取り組み、暫定調整池の緊急工事や、水路の拡幅、道路のかさ上げ工事などを実施しました。

しかし、16年の台風による記録的な降雨で、次木や東宝珠花、木間ヶ瀬地区など、広い範囲で浸水に見舞われたことから、19年に、国と共同で東宝珠花地先に排水ポンプ場を設置するとともに、同年から下流部分の、県

立関宿高校付近までの千820メートルの区間で、同水路の改修工事を進めることとしました。

また、20年8月に再び記録的な集中豪雨で市域全体で浸水・冠水被害に見舞われたことから、緊急性の高い箇所を優先するたため、20年度から、補正予算を組み、応急的な排水対策を進めるとともに、六丁四反水路をはじめとした恒久的な排水整備を市内全域で実施しています。

引き続き113メートルを整備

同水路は、昨年からの今年度の6月にかけて、関宿高校前の320メートルの区間で整備を行い、全体の約15パーセントが完了しています。

さらに、今年度は、23年3月末まで県道岩井関宿野田線付近の113メートルの区間を整備し、全体の約24パーセントが完了する予定です。

市では、浸水被害の早期解消に向け、引き続き整備を進めていきます。